

建設産業の担い手確保に向けて（案）

平成27年6月18日
中部圏けんせつ未来懇話会

中部圏においては、南海トラフ地震や豪雨等の災害に対する安全・安心の確保、地域の連携・ネットワークの強化、インフラ老朽化対策などが重要な課題となっており、建設産業の果たす役割はますます増大しています。一方、少子高齢化社会の進展に伴い、未来的視点に立った建設産業の担い手確保への取り組みが急務となっています。

中部圏けんせつ未来懇話会では、今後の建設産業の担い手確保に向け、学識経験者、建設産業関係団体、行政機関に加え、若手入職者の送り手である学校やご家族の代表として教職者、婦人団体、PTAの皆様にもご参加いただき、それぞれの立場から有意義な意見・提案等をいただきました。

以下のメッセージは、今後の建設産業の担い手確保に向け、特に送り手側から出された意見・提案を踏まえて、関係機関が連携して取り組むべき対応の方向性を示すものであります。

1. 建設産業のことをよく知ってもらおう

次世代を担う子供たち、これから就職を考えている学生に、建設産業に入りたい、携わりたいという憧れや希望を抱いてもらうとともに、ご家族にも入職を応援してもらえるように、建設産業のことをよく知ってもらい、正確な理解が得られるような取り組みを推進しましょう。

2. 建設産業にやりがい・誇りを持てるようにしよう

建設産業は、子供たちの未来を築く社会資本の整備と維持管理をはじめ、国土を守る防災・減災対策を担っている、夢とやりがいのある業界であることを、建設産業に従事する者が実感し、自信と誇りを持って働けるような取り組みを進めましょう。

3. 働きやすい職場環境を作ろう

建設産業の担い手が、長く、安心して働くことができる職場環境を作るためにも、新3K（給与・休暇・勤務地）への対応、女性が活躍しやすい環境づくり、若手の継続的育成への取り組みに、真摯に向き合っていきましょう。